

# 東京日々新聞

九百廿六号



縛々堂主人記

何所とありて逃去ぬ嫁も  
 氣絶はるべしと誓ひたりて  
 蘇生家内一同怪我も  
 免さる

此炎厄は  
 免さる

秩父郡阿蘇

村ある登屋

方一或夜

盗押入て家内

不残待のけし封せと謹責る

二階より緩る此家の嫁を敵懐せしむるに造出る

管見土蔵の家根の押へる石は階を其躬に下

墮と落つ響は怪しく瓦落しと轉來る

石と盗賊の棟上誰やう人

あつて碌とや

思ひん畳の上

突立する又と風呂鋪包は捨置

早稲田